

2016年7月27日

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

【開催報告】「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」

受賞記念講演会・シンポジウム

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団は「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞※」の受賞記念講演会とシンポジウムを開催しました。

※「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」は、優れた社会福祉学術文献を表彰する制度で、社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者・研究者の研究意欲の促進と、わが国の社会福祉の発展に寄与することを目的として1999年に創設しました。

記

1. 開催日時：2016年7月23日(土) 13時～17時
2. 場 所：グランドアーク半蔵門（東京都千代田区）
3. 参加人数：約90人（大学関係者、学生・研究者、企業・行政の担当者、障害者団体関係者ほか）
4. 主催：公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団
後援：厚生労働省、一般社団法人日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉系学会連合、一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟
5. 内 容
＜第Ⅰ部＞ 受賞記念講演会
受 賞 者：青山 陽子氏（成蹊大学ほか非常勤講師）
受 賞 著 書：「病いの共同体
ーハンセン病療養所における患者文化の生成と変容ー」
＜第Ⅱ部＞ シンポジウム
テ ー マ：利用者の「生活」から福祉の「場」を考える
コーディネーター：岩 田 正 美 氏〔日本女子大学 名誉教授〕
パネリスト：谷 口 由希子 氏〔名古屋市立大学 准教授〕
：橋 本 明 氏〔愛知県立大学 教授〕
：向谷地 生 良 氏〔(社)浦河べてるの家 理事、北海道医療大学 教授〕
コメンテーター：青 山 陽 子 氏〔成蹊大学ほか非常勤講師〕

6. 参加者の感想

- ・ハンセン病療養所＝人権侵害の場、というイメージだったが、青山さんの講演を聞き、そこに暮らす人々にも生活があり、独自の文化も形成されていた、という新しい視点に気づくことができました。
- ・北海道の過疎の町、浦河の「べてるの家」の「当事者研究」というユニークな手法は前から気になっていました。統合失調症などを抱える人の生きづらさが、仲間や関係者、家族との連携により少しずつ解消されていくという話は、もっと多くの人に聞いてもらいたい好取り組みだと思います。
- ・児童養護施設にいる子どもたちは、自分の意思に関わらず入所、退所、18歳での自立を強いられており、時に「身をよじり」ながら社会を経験している、という現状を早急に大人が解決しないと、と感じた。
- ・障害者や高齢者は「施設から地域へ」というのが流れたが、社会福祉の制度の中で、多様なニーズに果たしてどう対応していくのかの答えはなく、地域で簡単に受け入れることは難しいと改めて思いました。

以上